

■ 大学めぐり／大阪大学の巻

大阪大学工学部土木工学科紹介

早くから「水のみやこ」と呼ばれ、今日縦横に張りめぐらされた高速道路網の用地として橋脚が流れをさえぎり、あるいは埋め立てられたりして、昔の面影は薄くなったとはいえ、いぜんとして大阪のシンボルであり、母ともいふべき淀川が天満のあたりへゆるやかにカーブする近く、都島区東野田に大阪大学工学部東野田学舎がある。

〈沿革〉 大学としての歴史をひもとくと、前身は明治 29 年創設の大阪工業学校であり、これが明治 34 年に大阪高等工業学校に昇格し、さらに工業都大阪の要請により、昭和 4 年大阪工業大学に発展した。その後大阪にも帝大をという運動が実を結び、大阪帝日大学工学部に移管されたのが昭和 8 年であり、このときから工学部としての歴史が始まった。

土木工学科 20 年の歩みは昭和 22 年 4 月に始まる。すなわち、第 2 次大戦の終了とともに航空学科に代わって工業力学科が設置されたが、これも間もなく廃止され、その講座を転用して“構築工学科”が新設されることになった。その構想は構造学と機械化施工に重点が置かれ、昭和 22 年 5 月 1 日に新入学生 23 名の入学宣誓式が行なわれ、枚方学舎において最初の講義が行なわれた。講座数は創立当時の 3 講座から次第に増加し、昭和 25 年 3 月には第一期生が卒業したわけである。

ところが新設学科であるうえ“構築”なる名称が見えないせいか、就職その他かなり苦労があったようである。また、当初は建築と土木の混然一体となった学科を目指したが、双方同時に修得することの困難さと、講座数の不足が痛感されたので、昭和 24 年 4 月には履修科目に大幅な改正が加えられ、翌 25 年から一部の科目については建築・土木別々の講義が行なわれるようになった。さらに、この学科課程は昭和 27 年 10 月から土木・建築両コース別に分離され、現在の土木工学科の礎がで

きたわけである。

〈現況〉 阪大もいわゆる“タコ足大学”なので、工学部学生は教養部時代はいちよう並木に縁どられた豊中市待兼山で学ぶのであるが、進学したとたん、騒音とスモッグによごされた東野田を目の前にして驚かされる。幸い近々吹田市千里丘陵への移転が決まり、一部の学科はすでにそちらへ移ったが、土木はクジ運が悪いのか、最後の組になりそうである。

東野田学舎の主要な建物は写真一 1 の 1 号館であり、この建物は正門に面しており、戦前から、荘重な帝大の雰囲気止め、内部の廊下も薄暗く、進級したばかりの学生を一瞬とまどわせる空気を漂わせている。そして、向って左側の 3 階一円が教官室と講義室になっている。

写真一 1 正門に面した 1 号館



つぎに現在の講座を説明すると

第 1 講座 (基本構造学, 構造論)

構造力学, 応用弾性学, 塑性力学, コンクリート工学, 土木計測法

第 2 講座 (河川工学, 水理学)

水理学, 河川工学, 水文学, 水資源工学

第 3 講座 (交通工学)

交通工学, 都市計画学, 道路工学, 鉄道工学

第 4 講座 (海岸・港湾工学)

水理学, 海岸工学, 港湾工学

第 5 講座 (応用構造学)

橋梁工学, 橋梁製作架設法

第 6 講座 (土質基礎工学)

土質工学, 基礎工学, トンネル工学, 土木施工法, 測量学

その他があり、当学科の必要単位数は最低 120 単位と工学部中随一であって、学生は実験、実習、設計・製図、試験に迫られている。しかし、学生の絶対数が少ないの

で、教官と学生の接触の機会も多く、そのため学生1人1人の顔が知られているので、代返はむずかしいようである。

一方、本学の近くは京橋の繁華街なので、遊ぶことには事欠かない。とくに土木の学生は、元来呑気なのか、神経が太いのか、提出期限が近づいてもよく遊ぶようである。

最後に某教授が同窓会報に回顧されていた一つのエピソードを孫引きして、スポーツ好きの多い土木科学生の“構築精神”といったものをとらえてみたい。それは校内試合のサッカーのとき、大激戦の末構築科が優勝したのであるが、闇にまぎれて最初の11人が15人になっていた。その先生が「どうしたんや」と問いかけると、「あいつに、お前のいとれ、といて僕が交代したんです。ところがどこなかったのでしょうか。でもあんなったら、黙って見ていられないじゃないですか」といったという。

この意気、チームワークこそ土木を学ぶ者の身上でしょう。とかく利己的に走りやすいわれわれに大きな示唆を与えることばです。

写真-2 水理実験場



(文責・油谷)

学献社の最新土木工学演習集成 [全14巻]

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| 測量学演習(1) | 中央大 工博 春日屋伸昌著
A 5判 392頁 1300円 | 港湾工学演習 | 日本大 工博 小川 元著
A 5判 412頁 1400円 |
| 測量学演習(2) | 中央大 工博 春日屋伸昌著
近刊 | 発電水力演習 | 電力中研 工博 千秋信一著
A 5判 424頁 1500円 |
| 構造力学演習 | 東京大 工博 久保慶三郎著
A 5判 268頁 1000円 | 上下水道工学演習 | 中央大 工博 内藤幸徳著
A 5判 280頁 1200円 |
| 水理学演習(1) | 北海道大 工博 岸 力著
A 5判 302頁 1100円 | 土質力学演習 | 中央大 工博 久野悟郎著
近刊 |
| 水理学演習(2) | 北海道大 工博 岸 力著
A 5判 246頁 900円 | コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学演習 | 都立大 工博 村田二郎著
近刊 |
| 橋梁工学演習 | 早稲田大 堀井健一郎著
A 5判 328頁 1200円 | 河川工学演習 | 東工大 工博 吉川秀夫著
近刊 |
| 道路工学演習 | 土木研 工博 伊吹山四郎著
A 5判 410頁 1400円 | 交通工学演習 | 道路公団 埴 克郎著
近刊 |

東京都文京区小石川3-1-3 (伝通院ビル)
振替口座 東京 13152 電話 (813) 7362・3

〒112

株式会社 学献社